

## 生物多様性



### ▶ 原材料調達時の配慮

- ▶ 「木材調達ガイドライン」の運用
- ▶ 熱帯林材利用の廃止
- ▶ 木材の循環利用を推進
- ▶ 「第8回日本環境経営大賞」にて「環境価値創造パール大賞受賞」

### ▶ 生態系保全の取り組み

- ▶ 「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」と「ビジネスと生物多様性イニシアティブ(B&B)」への参加
- ▶ 住まいの緑化を提案
- ▶ 「5本の樹」計画の推進
- ▶ 「シャーマゾン ガーデنز」の取り組み
- ▶ 分譲マンションにおける緑化の推進
- ▶ 都市開発における環境配慮
- ▶ 生物多様性サイトの開設
- ▶ 「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」
- ▶ 庭木再生利用の取り組み

## 「木材調達ガイドライン」の運用

### 「木材調達ガイドライン」を運用

森林に関しては、海外において違法伐採や過剰伐採が根絶されない一方、国内では木材自給率が上昇に転じたものの、まだ3割程度と低迷しており、伐採されない山が荒廃するなどの問題があります。

当社は大量の木材を利用する住宅メーカーとして、これらの問題に取り組むため、合法性や生物多様性、伐採地住民の暮らしまでを視野に入れた「木材調達ガイドライン」を2007年4月に策定。これに基づき、「フェアウッド」※調達を推進し、調達レベルの向上を図っています。

「木材調達ガイドライン」は10の調達指針で構成され、違法伐採の可能性や樹木の絶滅危惧リスク、伐採地からの距離、木廃材の循環利用、伐採地の先住民にとっての伝統的・文化的アイデンティティ、伐採地の木材に関する訴訟・紛争など、多面的な視点で調達木材を評価できるようになっています。

※ フェアウッド：伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材、木材製品のこと。財団法人地球・人間環境フォーラムと国際環境NGO FoE Japanが提唱

### 社外のNGOとも協働

「木材調達ガイドライン」の制定については、客観性や公正性を保つために「フェアウッド」を提唱している国際環境NGO FoE Japanの協力もいただきました。FoE Japanの世界的ネットワークにより、森林に関する多様なデータベースに基づいて、調達木材を評価することができます。さらにガイドラインの運用についても、新規樹種の評価依頼や国内外の木材調達に関する情報提供、フェアウッド説明会の講師など、FoE Japanとの連携を継続しています。

### フロア材などで調達レベルを向上

以前、調達レベルが低い木材の約7割を占めていたフロア材は、近年、サプライヤー各社の積極的な協力が得られ、樹種・調達場所の変更や森林認証取得などによって、調達レベルが改善されました。2010年度は南洋材や北洋材など、違法伐採リスク低い、国産材（アジアの一部）や欧州材などの調達量が増えたため、順調に調達レベルを向上させることができました。

また、木造住宅シャーウッドの構造躯体への国産材採用については、これまで東北エリア限定対応でしたが、展開エリアを全国に拡大しました。

2010年の調達ランクは総調達量30.8万m<sup>3</sup>のうち、レベルの高い順にSランクが56%、Aランクが31%、Bランクが8%、Cランクが6%と、フェアウッド調達を着実に進めています。（ランクの定義については下表をご参照ください）。

#### 「木材調達ガイドライン」の10の指針

以下の木材を積極的に調達していきます。

1. 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
2. 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
3. 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
4. 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
5. 消費地との距離がより近い地域から産出された木材
6. 木材に関する紛争や対立がある地域以外から産出された木材
7. 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
8. 国産木材
9. 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
10. 木廃材を原料とした木質建材

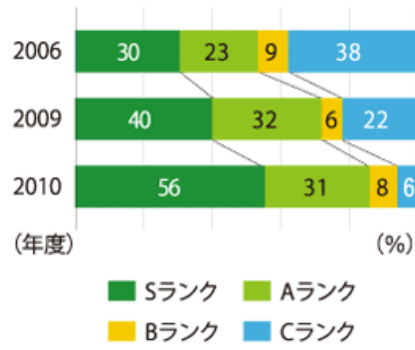
#### 調達レベルの評価 ～指針の合計点で調達ランクを決定

合計点(最大43点)	調達ランク	各調達指針の合計点で評価対象の木材調達レベルを高いものから順にS、A、B、Cの4つに分類。10の指針の中で特に重視している1、4に関しては、ボーダーラインを設定。
34点以上	S	
26点以上、34点未満	A	
17点以上、26点未満	B	
17点未満	C	

■ 木材調達実績



- ※1 アジア:国産材含む
- ※2 南洋:インドネシア、マレーシアなど
- ※3 北洋:ロシアなど
- ※4 その他:南米、アフリカ、木廃材を含む



さらなる調達レベルの向上を目指す

SランクとAランクを合わせると8割を超えるまでになってきました。「フェアウッド」に対する認識が高くなったこと、サプライヤーや環境NGOとの連携強化で調達木材のトレーサビリティが向上してきたこと、認証材や国産材を取り巻く状況が変わってきたことなどを受けて、来年度は調達木材の評価レベルを高め、より一層の「フェアウッド」調達に取り組んでいきます。

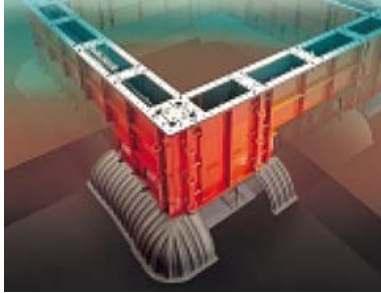
関連項目

- 生物多様性の保全(P.129)
- 環境目標と実績

## ■ 熱帯林材利用の廃止

住宅の基礎部にコンクリートを流し込む際の型枠は、一般には熱帯林材などを原料とする木材が使われてきました。この木製の型枠は数回使用された後、廃棄されています。

しかし、当社では、省資源の観点から1975年より、繰り返し使用できる鋼製の型枠「メタルフォーム」を採用し、現在まですべての住宅建設工事で使用しています。これによって、基礎工事の精度が大幅に向上しただけでなく、木材資源の保全にもつながっています。



鋼製型枠「メタルフォーム」

## ■ 木材の循環利用を推進

### 製材工程で発生する木端材や木廃材を有効活用

当社の「木材調達ガイドライン」の指針の一つに「木廃材の活用」があります。木廃材には建設廃材のように樹種や伐採地の確認が現実的に不可能なものと製材工場の加工端材のようにある程度、樹種や伐採地が確認できるものがあります。

当社では木材のトレーサビリティの向上に努めており、製材工場の加工端材については、可能な範囲で、樹種や伐採地を把握するようにしています。



木廃材を原料としたパーティクルボード

■「第8回日本環境経営大賞」にて「環境価値創造パール大賞受賞」

生物多様性の保全は、地球温暖化と合わせて、環境問題の中でも優先順位が高い課題として認識されています。2010年は、日本で生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)で名古屋議定書が採択されました。新たな目標である「愛知ターゲット」に向かって、継続した取り組みが求められます。

当社の「フェアウッド」調達は本業を通じた生物多様性保全活動として、社外から数々の賞をいただきました。2010年3月には「第8回日本環境経営大賞」で、環境に関する製品・サービスやビジネスモデルに加え、ライフスタイルの転換へのムーブメントにつながる環境保全取り組みが新たな環境価値の創造に貢献しているとして、当社の「木材調達ガイドライン」が「環境価値創造部門」の最優秀賞にあたるパール大賞を受賞しました。社外からの評価により高いレベルで応えられるように、環境NGOやサプライヤーとともに、さらなる取り組みを進めていきます。



関連項目 ■ 生物多様性の保全(P.129)

## ■「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」と「ビジネスと生物多様性イニシアティブ(B&B)」への参加

### 国際的評価に足る生物多様性保全の取り組みを目指し、二つの会議体に参加

人間の活動によって自然生態系が破壊され、生物多様性が急速に喪失されつつあります。こうした状況をくい止めるには企業による取り組みが不可欠であるとの国際的な認識が広まる中、当社では、「5本の樹」計画の推進(2001年より)や「木材調達ガイドライン」の運用(2007年より)など、本業を通じて生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、その持続的な利用を可能とする取り組みを進めて参りました。

2010年10月に、名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議」(COP10)では、日本における生物多様性の取り組みに国際的な注目が集まりましたが、当社は2008年より、当社の取り組みが国際的な評価に足る確実な活動へとステップアップできるよう、生物多様性の保全を目指す「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」と「ビジネスと生物多様性イニシアティブ(B&B)」という2つの会議体に参加しています。

### 取り組みに積極的な国内外の企業とともに、活動を推進

「JBIB」は、2008年4月1日に、当社のほか、国内で生物多様性の保全及び持続可能な利用に積極的に取り組む企業が集い、設立されました。参加企業は2011年4月13日現在、本会員36社、ネットワーク会員13社に上り、企業が主体となって連携した活動が行われています。当社は理事企業として活動のサポートをしています。



関連項目 [■ 企業と生物多様性イニシアティブ\(JBIB\)のHPはこちら](#)

### 本業を通じた生物多様性保全への貢献

今後も国際的な視点により、本業を通じた、生物多様性保全の活動を継続していきます。

### ■ これまでの取り組み

2001年	「5本の樹」計画開始 お客様と一緒に庭や街路に生き物にとっての利用価値の高い自生種や在来種の樹木を植栽する「5本の樹」計画と名付けた造園緑化事業をスタートしました。
2005年	「5本の樹」計画の選定を基本とした「まちづくり憲章」を制定し、運用開始 「5本の樹」計画を全国の「まちなみ参観日」で反映させるなど、ビジネスの中での展開を開始しました。
2007年	「木材調達ガイドライン」を制定 絶滅危惧樹種の採用回避など生物多様性保全を含む10の調達指針からなる独自の「木材調達ガイドライン」を制定しました。木材製品のサプライヤーとの連携のもと、生物多様性保全についての取り組みを続けています。
2008年	「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」に参加 参加の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性に関する参加企業相互の情報提供、専門家、異業種担当者との意見交換、勉強会などによる学習。</li> <li>参加メンバー企業による生物多様性の指標やモニタリング手法などの共同研究、共同調査。</li> <li>JBIBを通じた自社活動のアピール(国、自治体、生活者など)</li> <li>COP10などと関連した生物多様性に関する政策への関与。</li> </ul> 「ビジネスと生物多様性イニシアティブ(B&B)」に署名 署名の主な目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>COP10関連イベントでの自社活動の国際的アピール。</li> <li>国際的なトレンドなどの情報入手、他企業の事例紹介などを通じた情報交換。</li> <li>メンバー企業合同による国内政策への関与など</li> </ul>
2009年	「5本の樹」計画の効果を検証するため「いきもの調査」を開始 専門家の協力を得て、住民の方々を交えながら5団地6か所で開催しました。

2010年 「生物多様性交流フェア」に出展

COP10と同時開催された「生物多様性交流フェア」に、ブースを出展(NPO法人生態教育センターと共同出展)し、自社の取り組み内容を紹介しました。展示のテーマは「私たちの身近にいる生き物たち」とし、緑化された住宅の精密模型ジオラマで「5本の樹」計画の意義を紹介した他、子どもたちも参加できるクイズやゲームも交えながら、来場者の方にわかりやすく説明しました。



COP10当社ブース

関連項目 [▶ 生物多様性の保全\(P.129\)](#)



## ■ 住まいの緑化を提案

2010年度に91万本を植栽し、5357t-CO<sub>2</sub>を削減しました

植栽は地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を吸収するだけでなく、夏の強い日差しを遮ったり、風の流れを調整したりして省エネルギー効果をもたらし、緑に囲まれた潤いある暮らしに貢献します。

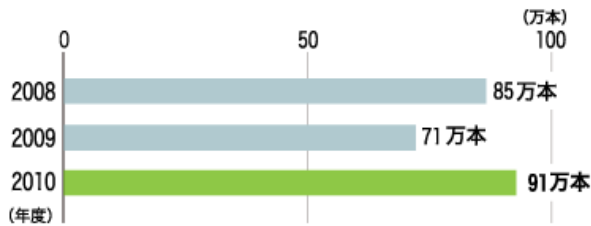
2010年の年間総植栽実績は約91万本で、景気低迷の影響により減少した昨年度に比べ28%の増加となりました。また、戸建住宅一棟あたりの植栽本数も低木や生け垣なども含んで前年比12.5%増の54本となりました。これら植栽によるCO<sub>2</sub>の吸収量は年間5357t-CO<sub>2</sub>/本にのぼります。

当社の緑化事業の基本コンセプトでもある「5本の樹」計画は、特集ページでも詳しくご紹介している通り、地域の自生種・在来種を中心とした庭づくりの提案です。こうした植栽は、住まい手にとって快適な暮らしを生み出し、経年美化を支えるだけでなく、生物多様性の保全にとっても大きな役割を果たすものです。

今後は、一層多くの皆様に植栽の意味と楽しさをお伝えすることに注力し、それによって植栽本数の増加にも取り組んでいきます。さらに住まいの緑化を進めることで、環境保全と緑豊かで快適な暮らしの両立に取り組んでいきます。

※ 植栽によるCO<sub>2</sub>年間固定量を(財)日本造園学会「ランドスケープ研究」により1カ月当たり0.488kg-CO<sub>2</sub>/本で算出

## ■ 年間植栽実績の推移



## 関連項目

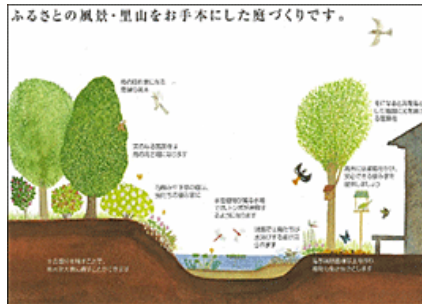
- ▶ 生物多様性の保全(P.129)
- ▶ 環境目標と実績

## ■「5本の樹」計画の推進

## 地域の自然環境との共存を図る「5本の樹」計画を進めています

積水ハウスは、人がいつまでも安心して豊かに暮らしていくために、多種多様な生き物と共存できるような緑化計画を進めることで、未来の子どもたちに豊かな自然を残していきたいと考えています。

「5本の樹」計画は、庭づくりやまちづくりを考えると、地域の気候風土に適した日本の原種や自生種、在来種の樹木を植えることによって、その地域に生息する多様な生き物を養い、本来の自然を取り戻すことを目的とした提案です。



5本の樹計画による庭づくり



## 「5本の樹」計画による庭づくりのポイント

## ① こだわりの樹木をセレクト

日本の原種・在来種からセレクト



日本の原種・在来種からセレクト



② 気候風土との調和



③ 生き物とふれあうしかけ



「5本の樹」計画による庭の例



## ■ 自然を結ぶ里山ネットワーク

積水ハウスは「5本の樹」の庭づくりを通して自然と自然をつなぐ、生態系のネットワークをつくろうとしています。見れば一つひとつの庭の緑は小さくても、「5本の樹」計画による庭が増えれば、緑の少ないまちの中でも生き物にとって中継地点が増えることになり、生態系の保全に役立てることが可能だと考えているからです。

### 自然を結ぶ里山ネットワーク



#### 中高木の約6割以上は、「5本の樹」計画の樹種を植栽

2010年度の植栽実績は年間91万本でした。そのうち中高木に関しては、周囲の気候風土にあった「5本の樹」計画の樹種が約6割以上となっています。

また、分譲住宅フェア「まちなみ参観日」では、販売物件すべてに「5本の樹」計画の樹木を植栽しました。

#### 「いきもの調査」で生物多様性の再生効果を検証

生態系に配慮した当社の庭づくり「5本の樹」計画の取り組みが、生物多様性の再生にどれだけの効果があるのかを検証するため、(株)生態計画研究所と共同で「いきもの調査」を実施しています。この調査は、当社分譲地において鳥や昆虫などの生息状況を実際に観察し、周辺地域との比較や、植栽の成長に伴う経年変化を評価する手法を採っており、全国5団地6か所で実施しています。

#### 長期的な観点で取り組んでいきます

今後も長期的な観点で、「5本の樹」計画を進めて、地域の自然回復や多様な生態系の保全に貢献していく考えです。

関連項目 ■ 生物多様性の保全(P.129)

## ■「シャーメゾン ガーデنز」の取り組み

将来まで選ばれ続ける賃貸住宅であるためには、建物だけでなく、敷地全体で、住む人にも街にも「いい環境」を創ることが重要です。特に複数棟からなる賃貸住宅では、それ自体が街になります。積水ハウスでは環境配慮型賃貸住宅「シャーメゾンECOスタイル」をベースに「街並みとの調和」「自然環境の保存と再生」「環境負荷への配慮」「快適性を高める設計」「安心・安全をもたらす設計」の五つの環境プレミアムを新たな指標とした「シャーメゾン ガーデنز」を提案しています。



景観や環境と調和する「シャーメゾンガーデンズ」で、さらに豊かな住環境づくりを進めます。

関連項目 [■ 生物多様性の保全\(P.129\)](#)

## 分譲マンションにおける緑化の推進

「グランドメゾン」ブランドで展開している分譲マンション事業でも、「5本の樹」計画を中心に、豊かな植栽を実施しています。分譲マンション事業全体で緑化率※20%という目標を掲げる中、2010年度に着工した物件全体で、緑化率23.5%を達成しました。

※ 緑化率：敷地面積全体に占める緑地面積

## グランドメゾン西九条BIO(大阪府大阪市)

日本の原風景「里山」をお手本とし、都会の中で失われ、分断されつつある自然を再現。緑豊かな住まいをつくり、そこに人が住み接することにより、自然が再生していくことを考えました。この地域の気候風土に合わせて自然の循環に役立つ樹木を選び、それにより地域にふさわしい生態系を守り、鳥や蝶たちの集まれる緑豊かな空間を演出しています。

圧迫感・閉塞感を緩和した計画により、光と風を取り入れ、敷地の約35%を緑地等のスペースにし、その中にピオトープを設け、暮らしの近くに自然環境を復元。日常生活を通し自然とふれあい、コミュニケーションを通して「里山」を育むことにより、この都心の地を郷土植生(雑木林の植生)の生態系ネットワークのひとつとして、自然環境が継承されていくことを期待しています。

さらに、太陽光発電システム、LED照明、ガスヒートポンプエアコンの導入によるCO<sub>2</sub>削減や雨水利用などによって、快適性と経済性、環境配慮を実現しました。

2010年10月には「第4回おおさか優良緑化賞 大阪府知事賞」(主催：大阪府)を受賞。これは、大阪府自然環境保全条例等に基づいて緑化がなされたもののうち、府内の都市環境の改善に特に貢献する緑化や建築物敷地内の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる等の優れた取り組みを顕彰することで、民間施設等において、より質の高い緑化を普及・推進することを目的とした賞です。

さらに、2011年1月、環境配慮の模範となる建築物を表彰する「第4回大阪サステナブル建築賞 特別賞」(主催：大阪府)も受賞しています。

(敷地面積1万4522.89m<sup>2</sup>・全365戸)



## グランドメゾン大倉山テラス(神奈川県横浜市)

都市に残された希少な自然環境と都市的な集合住宅の融合による 親自然な街並み・住まいの創出を目指しました。

地域の緑・街並みとの調和を考えた全体計画は、緑豊かな16mの高低差の斜面地、隣地斜面の樹種は雑木林、竹林で借景となっており、緑化率は21%となっています。

エントランスは、「5本の樹」の一つである、イロハモミジをシンボリックに配置し、シンプルな建物を背景に四季の移ろいを街に映し、街ゆく人々にも感じて頂けます。

中庭計画では、人と自然との触れ合いの場の創出をテーマに、ここでも「5本の樹」計画により雑木林のような散策路を設け、隣地樹林からの鳥や蝶の飛来。都市において、五感で四季の変化を感じ、多様な生物との触れ合う貴重な場を創出しています。

(敷地面積 2647.22m<sup>2</sup>・全60戸)



## ■ 都市開発における環境配慮

### 御堂筋の新しいランドマーク「本町ガーデンシティ」がオープン

2010年10月、「本町ガーデンシティ」が大阪のメインストリートである御堂筋のほぼ中央に位置する御堂筋本町にオープン。人々が集えるスペースや歩行者空間を整備すること、御堂筋ブランドにふさわしい風格あるファサードデザインにすること、また最高級ホテルやオフィス、ショップなどを誘致することなどにより、2007年2月に大阪市都市計画審議会で「都市再生特別地区」の都市計画決定を受け、同年9月に着工、2010年6月に竣工しました。

「本町ガーデンシティ」は、「建物の壁面後退による歩道の拡幅」や「敷地内外構空間での高木植栽」により、大阪の風物詩として市の指定文化財にもなっている御堂筋のイチヨウ並木との空間的連続性・調和に配慮し、より快適な歩行者空間を実現するとともに、人々が集う空間としての役割を演じます。また、特区として超高層が可能になった一方、11階でセットバックすることにより、既存の50メートルの高さ規制に配慮し、御堂筋沿いの古くからの建物のスカイラインとの連続性を意識した良好なまちなみ景観形成に取り組みました。

「本町ガーデンシティ」にはスターウッドホテル&リゾートのトップラグジュアリーブランドである「セントレジスホテル」が入居しています。大阪を由来としたデザインやアートが随所に見られ、このホテルを訪れる人々を楽しませています。



イベントが開催されるエントランスホールと歩行者空間のコリドー



御堂筋北西からのファサード

#### ■ 建築概要

所在地	大阪市中央区本町3丁目6番4号
建物用途	ホテル、店舗、事務所
敷地面積	3,720.65m <sup>2</sup>
建築面積	2,733m <sup>2</sup>
延床面積	50,153m <sup>2</sup>
建物規模	地上27階、地下2階、高さ131.95m

### 緑豊かなまちなみを創出「(仮称)御殿山プロジェクト」

当社が、江戸時代より将軍家の別宅のあった土地として知られる東京・御殿山地区で進めている「(仮称)御殿山プロジェクト」。格式ある御殿山の地にふさわしい洗練されたまちなみ・緑豊かな環境を創出し、訪れる人々にとって快適で、人間性豊かな環境を創出する敷地面積約2万8000m<sup>2</sup>のオフィスと住宅の複合開発です。

「5本の樹」計画に基づき在来種を中心とした約2万6400本もの植樹・植栽により、開発全体面積に対して40%を超える緑化を実現。地域の生態系の保全・再生、さらには広域の緑軸を形成し、風光明媚な御殿山の原風景の再生への布石となることを目指しています。

このような中、オフィス棟である「ガーデンシティ品川御殿山」は、石張りの重厚感のある外観とすることで落ち着いたまちなみを創出し、屋上庭園・ラウンジ・リフレッシュスペース等充実したアメニティにより、豊かな緑を眺めながら快適な時間を過ごすことが可能な計画です。また、太陽光発電はもとより、貸室全室へのLED照明、必要換気量を測定し効率的な換気を行うCO<sub>2</sub>制御センサー・地中恒温性を利用するクールピット・外気冷房等、次世代のニーズに応える先進の環境配慮技術を採用し、1990年度比のCO<sub>2</sub>削減率は約40%。国内トップクラスの環境配慮型ビルとなります。

人と環境に優しい、住宅メーカーならではの街づくりによる新たなまちなみが誕生します。



外観パース(五反田方面からのガーデンシティ品川御殿山)

#### ■ 建築概要

	ガーデンシティ品川御殿山	御殿山SHビル	プライムメゾン御殿山EAST	プライムメゾン御殿山WEST
敷地面積	15,942.79m <sup>2</sup>	6,806.38m <sup>2</sup>	2,167.74m <sup>2</sup>	3,167.73m <sup>2</sup>
構造・規模	RC造、地上9階・地下1階	S造、地上6階・地下2階	RC造、地上3階・地下2階	RC造、地上3階・地下2階
建物用途	事務所・店舗	事務所	共同住宅	共同住宅
延床面積	63,935m <sup>2</sup>	20,000m <sup>2</sup>	4,089m <sup>2</sup>	5,794m <sup>2</sup>
高さ	37.5m	37.5m	10m	10m
戸数	-	-	22戸	26戸

## ■ 生物多様性サイトの開設

## 生物多様性に特化して関係する情報を一元的にまとめたサイトを開設

当社では、「サステナブル宣言」に基づき、持続可能な社会の構築に向けて生態系、生物多様性への配慮を事業の重要な軸として取り組みを進めてきました。

具体的には、生き物にとって活用価値の高い地域の在来樹種を活用した造園緑化事業「5本の樹」計画、生物多様性にも配慮した「木材調達ガイドライン」、本社ビルがある「新梅田シティ」内に「新・里山」を造成、活用するなど、様々な活動を実施しています。

こうした当社の「生物多様性」に関する取り組みに対しては、社外からも様々な顕彰を頂いていましたが、情報を一覧できるサイトが無く、これを望む声が寄せられ始めていました。そこで多くの方に容易にアクセスして頂けるように、生物多様性に特化して関係する情報を一元的にまとめた「生物多様性サイト」を開設しています。

主人公のカエルが生物多様性を紹介するフラッシュ画面や、「ストップ温暖化『一村一品』大作戦2010」（主催：環境省、大会事務局：全国地球温暖化防止活動推進センター）の全国大会において“銅賞”を受賞した、「新・里山」の四季の移ろいやそこで見られる生き物の現状を紹介するブログを設け、親しみやすいサイトになっています。



積水ハウスの「生物多様性」サイト。  
カエルが登場して、生物多様性の重要性を解説します。

関連リンク ■ [生物多様性サイトはこちら](#)



■「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」

自然への意識を高めてもらうために、「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを開発・普及

当社は、「5本の樹」計画を通じて、住宅の庭先からの生態系保全を呼びかけています。多くの方に身近な鳥や蝶にもっと親しんでもらい、自然保護意識、環境意識の向上を図るために、携帯電話から樹木やその樹木に集まる鳥や蝶の情報が入手できる「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを開発し、普及に努めています。

こうした生態系のつながりを示した自然観察のデータベースはほとんど例がなく、また、本物の鳥の鳴き声と写真が確認できるため、いわば「携帯版ポケット自然観察図鑑」としての活用が期待できます。

2009年7月には「第3回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）」を受賞しました。

**「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを運営**

鳥や蝶、樹木の名前を知らなくても形や大きさ、色の特徴から検索可能。鳥は鳴き声を再生して確認することができます。

- 鳥24種（鳴き声も）
- 蝶24種
- 樹木92種

掲載

■ サイトトップページからアクセス <http://Shonnoki.jp>

■ QRコードからアクセス



関連リンク ▶ 「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトはこちら

システムの活用についての社員研修を実施しました

本システムを社員研修でも紹介し、使用方法の解説やお客様への営業時などにおける活用提案などを行いました。また、住宅展示場をはじめ、さまざまなイベントを通じて、普及活動を推進しました。カタログや印刷物にも、システムについての内容を盛り込みました。

当社の環境保全への姿勢を、よりご理解いただけるツールとしても活用していきます

今後も、自然の観察や保護に関心の高い方々やご家族などへ当社の環境保全の姿勢をご理解いただくよう、話題づくりのツールとしても活用していきます。

5本の樹・野鳥ケータイ図鑑利用の流れ



- 1** 野鳥・蝶・庭木から検索対象を選択
- 2** 大きさや色などの項目から条件を選択
- 3** 検索結果から対象を選択
- 4** 写真や特長などの詳細情報を表示

関連項目 ▶ 生物多様性の保全(P.129)

## ■ 庭木再生利用の取り組み

### 不要となった庭木を再生して、展示場などに移植

住宅の建替工事の際、庭木は伐採され処分されてしまうことがほとんどです。北関東地区では永年かけて根を張った枝振りのいい庭木を活用するため、解体現場で不要となったり、工場施設のレイアウト変更などで撤去せざるを得なくなったものを一旦、関東工場にある約1600m<sup>2</sup>の再生樹木の圃場に移し、植栽に配慮した手順で別の展示場へ移植する取り組みを試験的に行っています。

2008年11月より一般公開しているゼロエミッションハウスに隣接する築山に配植した庭木105本も工場内の再生樹木の圃場から移植した中高木です。



再生前のムサシノケヤキ



再生利用されたムサシノケヤキ